

平成19年度 知能機械情報学専攻

大学院博士課程入学試験問題

「知能機械情報学（論述）」

試験日時：平成18年8月22日（火）13：00～14：40

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. 問題は問題1と問題2がある。全て解答すること。
3. 問題冊子の落丁、乱丁、あるいは印刷不鮮明な箇所があれば申し出ること。
4. 答案用紙は2枚配布される。枚数を確認し、過不足があれば申し出ること。問題ごとに1枚の答案用紙を用いて解答すること。解答を表面で書ききれない場合は裏面を使用しても構わない。その際は裏面にも解答した旨を表面に記入すること。
5. 答案用紙の指定された箇所に、科目名の「知能機械情報学（論述）」、修士・博士の別、受験番号、その答案用紙で解答する問題番号を記入すること。これらが記入漏れの場合は採点されないことがある。ただし、答案用紙欄にある「枚/枚中」の記入は不要である。
6. 解答に関係のない記号や符号を記入した答案は無効となる。
7. 答案用紙は、解答ができなかった分も含め、2枚全て提出すること。
8. この問題冊子にも受験番号を記入し提出すること。

受験番号	
------	--

上欄に受験番号を記入すること。

草稿用紙
(切り取らないこと)

草稿用紙
(切り取らないこと)

問題 1

平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間を対象とした第 3 期科学技術基本計画において、「イノベーション」は、科学的発見や技術的発明を洞察力と融合し発展させ、新たな社会的価値や経済的価値を生み出す革新と定義されている。この基本計画では、我が国の潜在的な科学技術力を、経済・社会の広範な分野でのイノベーションの実現を通じて、本格的な産業競争力の優位性や、安全、健康等広範な社会的な課題解決などへの貢献に結びつけ、日本経済と国民生活の持続的な繁栄を確かなものにしていけるか否かが今後の鍵となるとしている。以下の間に、筋道を立てて論ぜよ。

- 問 1. 近年の IT (情報通信技術) の急激な発展により、我々の生活、ビジネススタイルは、めざましいスピードで変化してきている。イノベーションを起こした IT の例を一つあげ、どのように社会を変えたか具体的に論ぜよ。
- 問 2. IT に限らず 10 年以内にイノベーションを起こしそうな技術と、それによってもたらされらると思われる将来の我々の生活またはビジネススタイルの変化をあげよ。また、その技術がイノベーションを起こす上で考えられる問題点とその解決法について技術的な観点だけでなく経済・社会的な観点からも論ぜよ。

以上

草稿用紙
(切り取らないこと)

問題 2

あなたが博士課程で取り組みたいと考えている研究について次の問に答えよ。

問 1. 研究のテーマ名を述べ、研究計画について、目的、従来の研究、研究の独創性、研究の方法について述べよ。

問 2. 研究計画はどのような観点で評価されるべきか述べよ。また、問 1 で答えたあなたの研究計画について、この観点から客観的に評価せよ。

以上

草稿用紙
(切り取らないこと)

草稿用紙
(切り取らないこと)

草稿用紙
(切り取らないこと)

